

県連ニュース

2009年12月1日発行
栃木県勤労者山岳連盟

09年度県連「涸沢テント泊交流合宿（登攀山行）」実施報告・・・1
栃木県連交流ハイキング・・・4

09年度県連「涸沢テント泊交流合宿（登攀山行）」実施報告

09年9月19日～23日に登攀技術の継承を目的とした、涸沢テント泊交流合宿を実施したので報告する。

今回の合宿は、09年3月の総会にて提案された県連行事として、足尾ジャンダルでの合同登攀訓練等を経て、実施されたものである。

◆参加者は、以下の8名(敬称略)。

関 和栄(CL 南那須山楽会)、打木 雅人(野木山想会)、初谷 智(クラブマウントアンサンブル)・・・A班
八木沢昌通(SL)、小嶋 利武、吉岡 昌徳、広瀬 範子、坂 渉(以上宇都宮ハイキングクラブ)・・・B班

<計画概要>

9/19(土)	栃木⇒沢渡Pへの移動、テント泊	
9/20(日)	沢渡⇒上高地・・・涸沢への移動、テント泊	(懇親・交流)
9/21(月)	A班、B班共に前穂高岳北尾根登攀	(懇親・交流)
9/22(火)	A班：滝谷ドーム中央稜登攀	B班：北穂高岳東尾根登攀 (懇親・交流)
9/23(水)	涸沢・・・上高地⇒栃木への移動	

注)9/22(火)は天候悪化の為、A班、B班共に登攀中止

09年度「涸沢テント泊交流合宿」参加 報告

宇都宮ハイキングクラブ 坂 渉(記)

9月19日 午後から出発。足利で最終的に8名が乗用車2台に分乗し、上高地の玄関口である沢渡(さわんど)に向かう。沢渡駐車場にてテント泊。

《9/20(日) 快晴》

5時半頃起床の予定が、みなさん、気持ちがいよいよ早め、早めに起きだす。快晴の澄んだ空。荷物の分担と装備の確認を行い、パッキング、沢渡を2台のタクシーに分乗して、上高地へ向かう。

《9/21(月) 快晴》

いよいよ本番初日。満天の星空。午前4時に出発する。5・6の科尔へ向かうにつれ、徐々に斜度を増すガレ場となる。しかし、足元は、ガレの崩れやすい斜面。慎重に登る。先行3パーティが確認できる。

徐々に明るくなり、ようやく5・6の科尔に着くと丁度御来光であった。奇麗にオレンジ色の太陽が昇ってきた。その右手には、富士山や南アルプス。振り返れば、涸沢カールの周りに、穂高連峰、その先に槍ヶ岳、

栃木県勤労者山岳連盟 発行責任者：増田俊男 編集責任者：橋田弘一

321-0345 宇都宮市大谷町1109

<http://www.geocities.jp/tochigirosan/>

さらに奥に後立山連峰もくっきりと見える。

小休止のあと、5峰に登る。ロープを出すほどでは無い。4峰は途中のルートがややわかりにくく、ルートを探すのに手間取る。尾根沿いを行き、大きな石を回り込むとピーク。そこから十分な広さをもつ3・4のコルに着了いた。

ここからが本格的な登攀。2パーティ以上が既にとりついていた。順番待ちのパーティがおり、我々も、しばらく待つことにする。前のパーティがとったルートを観察したり、装備や登攀手順の再確認、腹ごしらえなどをして、長い待ち時間の後、いよいよ、我々の番だ！

パーティは、1組目が、A班(初谷・打木・関CL)、2組目がB班の八木沢SL・小嶋・広瀬、3組目が、B班の坂、吉岡(敬称略)である。



3峰の取り付け部、八木沢・小嶋・広瀬組の登攀

1組目は、初谷さんがリードで登り始める。やや緊張の様子が下からもわかる。2組目は、八木沢さんがリードで登る。

3組目は、2人パーティなので、つるべで登ることにし、始めは私がリードで登る。右のクラック沿いに登り、次はリッジへ。ホールドがやや細かく、緊張するが、思い切って登ってクリアすることができた。1ピッチ目の終了点は、岩角でアンカーシステムを作る。セカンドとのやり取りは、声がよく通り、スムーズだった。2ピッチ目は、吉岡さんがリード。一番左のチムニーに。順調に登っていく。フォローをするが、順調な見た目ほどやさしくなかった。高度感もあり、リードでは緊張しそうなところだった。



3ピッチ目は、ほとんど手を使わずに登れ、4ピッチ目もオーバーハング気味のところがあるが難しくない。気がつけばここが、3峰の頂上だったようだ。5ピッチ目はコンティニューアスで稜線歩き。6ピッチ目は、短いが、切れ落ちており、慎重に越す。ここの終了点が2峰の頂で、懸垂下降の支点でもあった。

ここを慎重に降りれば、もうロープは不要。岩を越すと、吉岡さんに続いて、ひょっこりと山頂にでる。

全員と握手。こんな気持ちの良い山頂への到着の仕方はいままでにあっただろうか……。

「ヤッター！全員で記念撮影」

ここまでの登攀を反芻(はんすう)しながら、各自、食事と身支度。奥穂高岳を經由してテント場に戻る。途中、奥穂高山荘の梯子場がまれにみる大渋滞で1時間近く待ち、帰りが遅くなる。

涸沢小屋でビールを買い、到着するや否やテントに集まり、祝杯。普段たくさんは飲まない小嶋さん、吉岡さんまでビールをおかわりし、皆、頬の緩みを止めることができない。

それにしても、初心者で大勢連れての初日の登攀、トラブルもなく終えることができ本当によかった、よかった。リーダー関さん、サブリーダー八木沢さんのお陰と感謝！感謝！

その後も話は尽きないが、明日もあるので、2つのテントに分かれて食事。そこからも話は尽きない。関さんのテントは、気がつけば、南那須山岳会、マウントアンサンプル、野木山想会、宇都宮ハイキングクラブと

全員違う山岳会。そのメンバーが、全く違和感なく、旧知のようにテントの中で、語らい、食べ、飲んで、また次の山を夢見ている。そういえば、これは交流合宿だったんだ…。まるで、一つの会での集まりのようだった。

明日も楽しみだ。心地よい疲れに誘われて、早めに寝ることにする。

《9/22(火) 雨》

朝起きるとガスがでているようだ。滝谷ドーム中央稜を登攀するA班(関さん、打木さん、初谷さん)は6時に出発。その際に、雨がぱらっと降ってくる。だんだん雲が増えてくる。北穂高東尾根を登攀する我々B班は7時に出発。しかし、高度を上げるに従い、雨が強くなって来る。東尾根の取りつきは梯子が見えたらということだったが、見つからず行き過ぎたことを知るが、雨が強くなり、登攀は無理と判断。では、一般ルートで登ろうかと鎖場、梯子を登り、歩きたしたところ、滝谷A班が悪天候の為、登攀を断念し降りてきたところであたりと出くわす。東尾根組も北穂登山を諦め、全員でテント場に戻ることにする。残念無念。途中、東尾根の取りつきへの分岐を関さんに教えてもらい、次回の参考にする。

テント場についても時間を持て余し、3時から交流会。初谷さんが持ち上げた樽酒などを賞味する。各自温存してきたチャーシューやソーセージやつまみを出し合い、豪華な宴となる。

話題はやはり、山。「来年は、北岳パトレスが良い」とか「東尾根は、自主的に来よう!」「今回来れなかった人もいるので、次はその人たちも一緒に」などと、次の計画が決まっていくのであった。寝るのが惜しい夜であった。



異なる山岳会メンバーが大いに食べて、飲んで、語らう、また次の目標を…。

9/19	壬生 IC(15:30)=足利(16:30) =沢渡駐車場着(20:30 テント泊)
9/20	起床(5:00)=沢渡駐車場出発=上高地バスターミナル(7:10)・・明神・・徳沢・・横尾(10:15)・・本谷橋(12:00)・・湊沢(14:30) テント設営 16:00 交流会
9/21	湊沢(起床 2:30~4:00)・・北尾根 5・6 のコル(5:30)・・3・4 のコル(7:00)～渋滞待ち)～1パーティ目3峰取りつき(9:00)・・最終パーティ前穂高山頂着(12:10)・・14:50 奥穂高岳(14:50)・・奥穂小屋(16:00)・・テント場着(18:00) 交流会(18:30)
9/22	◆(滝谷ドーム組)湊沢(4:00~6:00)・・北穂高(9:00) 雨により登攀中止下山 ◆(北穂高東尾根組)湊沢(5:00~7:00)・・滝谷ドーム組と梯子場上部で合流登攀中止(10:00)・・下山 12:00 頃 テント場着、15:00~交流会

9/23	湊沢(起床 6:00~7:00)・・・ 横尾(9:40)・・・徳沢・・・明神・・・ 上高地バスターミナル(12:20)＝沢渡＝(入浴)＝栃木
------	---

『参考コースタイム』

栃木県連交流ハイキング

11月15日霧降高原にて県連ハイキング委員会主催の交流ハイキングが開催されました。(5団体110名参加)

県連交流ハイキング「霧降・隠れ三滝～大山」に参加して

中山淑江（宇都宮ハイキングクラブ）

平成 21 年 11 月 15 日（日）6：50 大谷駐車場。39名参加の大型バスで日光有料道路走行時には両側の紅葉樹林に朝日が当たり、大沢付近は赤と黄色の真っ盛り。

7：40 霧降駐車場。役員の方々がテントを張って朝早くから集会場の設営。各会バスで乗りつけ、100名からの参加者はA・B・Cコースの班行動に従い、まず大山へ行くCコースがすぐ出発。

8：00 集会場であるテニスコートでA・Bコースは全員でストレッチ。Bコースはそこから出発。私の参加したAコースはバスでチロリン村へ移動。

8：30 2班に分かれ所属混同で出発。道は紅葉した落ち葉で埋め尽くされ、笹道は昨日の雨で湿っていたものの小春日和で心も体もすぐにほかほか。

8：50 立ち休み5分後、所属の2班の班長で歌好きな方の野木山想会のテーマソングを皮切りに、山の歌のオンパレード。思わず皆が口ずさんだり手拍子を打ったりと、あっという間に連帯感が生まれた。

9：05 マックラ滝。飛び石を渡って傍まで行くと、水しぶきを体中浴びるほどの豪放ぶりに少々震えを感じた。

9：40 むかるんだ急登の道を上がり猫の平に。広場からは男体山・赤薙山、Cコースが登っている大山の素晴らしい展望。青空とぽっかり浮かんだ白い雲を入れて1・2班全員で笑顔の記念撮影。そして「ふるさと」をこれまた全員で合唱。日光の山並みに轟き渡る楽しい響きでした。

10：20 滑りやすい笹道を汗をかきかき慎重に足を運びながら下山。途中登ってきたBコースの人たちとハイタッチ。やはり一応に汗ばんでいても皆笑顔だ。

10：40 玉簾の滝。リュックを下ろし河原まで降りての見学。マックラ滝と比べ女性的な滝に穏やかな心の広がりを覚えるようだった。

11：00 丁字の滝。隠れ三滝と言われるように水量が多いと川が渡れず見過ごすことになってしまうだけに本日は天気にも恵まれ、初めて来た人も多い中、三滝すべて足を運べて幸運でした。

12：15 気持ちを一つに元気に4時間歩き集会場であるテニスコートへ戻る。ありがたい事に役員たちの手作り甘酒と漬物を頂戴する。A・B・Cコースが合い前後して食事タイム。

13：00 リュックなしの交流会。各会の挨拶の後、我が会のフォークダンスクラブがアルプス衣装で軽やかに踊りを披露。その後100名からの大きな輪で懐かしい「マイムマイム」。アルペンの曲にあわせ、老化防止と若さを取り戻せと言わんばかりに頭・手・足を使っての3曲。楽しくって、楽しくって知らぬ同士が泣き笑いのあっという間の1時間。山の疲れとはまた違う心地よい疲労感で過ごせ、各関係者の皆様ご苦労様でした。とても楽しく過ごせました。ありがとうございました。

平成21年度 県交流ハイキングに参加して（実施日 21. 11. 15）

悠遊HC 小川 弘好

今年度の交流ハイクは「日光 霧降・隠れ三滝」となった。

前日までの雨が上がり、予報通りの快晴で宇都宮の最高気温は20度との事。まさに小春日和となった。

悠遊HCとマロニエHCが合同で一台のバスをチャーター。

日光高速道両側のカエデは朝日を受けて真っ赤に光って見事である。この分だと、霧降周辺の紅葉は終わっていると思われる。

8:00に滝駐車場に到着

渡された名簿によれば、五つのクラブの参加者は106名。希望によりA、B、Cの3コースに別れ、各コースは2つに分けた班編成だ。各班の人数は16~19名。出来るだけ同一クラブの人が続いて歩かない、男同士、女同士が続いて歩かないように編成されてある。交流ハイクが意義あるように配慮された編成だ。私はAコース第2班。

各コースごとに整列し、ストレッチ後C、B、Aの順で時差出発

今回は車道の都合で計画が変更され、Aコースの班は「マックラの滝→猫ノ平→玉簾滝→丁字滝→ツツジガ丘」の順で歩くことになった。

Aコースは最後にバスで出発。8:20スタート地点に到着。8:27ハイク開始、予想した通り、落葉樹は葉を全て落とし、明るい林の中の山道を落葉を踏みながらの山歩きである。

9:05マックラ滝到着、滝の周辺は木が多い。夏は木の葉が繁って真っ暗のためこの名が付いたのだろうか。滝は沢を挟んで対岸にあり、何人かは沢を渡り滝壺を見てきたが、多くの人は対岸から滝を眺める。約10分で滝を後にし、猫ノ平に向かう。班長の河島吉昭さんは名リーダーである。昔我々が子供の頃の歌を唄ったり、班全員に唄わせる等したため、全員楽しく歩くことができた。鞍馬天狗、少年探偵団、ひょっこりひょうたん島など。一番から三番まで正確に覚えているからすごい。

藪の中での登山道を30分登り、9:40猫ノ平に到着。ここは牧場で見晴らしが良く北に大山、西に男体山と女峰山が良く見える。昔、五月に猫ノ平に来たときは大山がツツジの花で真っ赤に染まっていたことを覚えている。牧場の牛は既に山を下り、牛の姿はない。男体、女峰を背に班全員で記念撮影。元気いっぱいの河島さんの指揮で合唱を楽しむ。時間の都合で大山はカット。10:00に第二の滝である玉簾滝に向かって出発。

すっかり葉を落とした林の中に、一本だけ真っ赤な葉を付けた目薬の木が目をついた。

10:45玉簾滝に到着。前日までの雨で増水のため、滝の水は玉簾になっていないのが残念。10:50に第三の滝である丁字の滝に向かって出発。河島さんの歌でみんなは元気に沢沿いの道を歩く。

11:02丁字滝に着く。曲がりくねった滝であるが、「丁字」には見えない。名前の由来を知りたい。数分間滝を眺めた後ツツジガ丘に向かって出発。冬枯れの林の中は明るく気分爽快だ。河島さんの指揮で唄いながらゆっくり歩くこと50分でツツジガ丘に到着。12:00には参加者全員が

テニスコートに戻ることが出来た。

到着した人から順に、調理班の人が作ってくれた温かい甘酒をご馳走になる。汗をかいた後の甘酒は有り難い。ハイキングに参加せず準備してくれた調理班の人に感謝。

全員で整理体操後、13:00まで昼食少し風が吹いてきたが、気温はまだ高い。

13:00全員テニスコートに集合し、班毎に整列。各クラブの代表によるクラブ紹介があった。短時間であったが要領よくまとめられた話のため各クラブの様子を知ることが出来た。最後はフォークダンス。宇都宮HCのフォークダンス部員の指導により、約1時間フォークダンスを楽しむことが出来た。私にとって女性とフォークダンスをするということは中学校以来のことであり、緊張のあまり汗だくの状態であった。

好天に恵まれ、転倒等によるけが人も無く106名全員が交流ハイキングを楽しむことができた。このハイキングを計画された委員の方、調理班の方、宇都宮HCのフォークダンス部の方々に感謝、感謝。

栃木県連交流ハイキング

2009. 11. 15

私が高齢ハイキング委員になって今回で3年目、3回目のハイキングです。

一回目は八方ヶ原のミツモチ山、2回目は篠井連峰、そして3回目の霧降隠れ三滝となります。本番の山行はそれなりに緊張する訳ですが（同行した人達は私を見てそんな事はない）と思っているかも知れません。それぞれ思いが湧いて来ます。こうした方が良いか？ こうやった方が良かったのではないかと等より良い考えが無かったか？ コンビを組んだ 鈴木健さんとの相性も抜群だったとっております。山歩きが終ったイベントについては2回目、各会で文化的？交流、出し物では へた

くそで 不器用ながらも、一生懸命に演技をしていたのが印象に残って 実に面白かったと思っています。交流と言う点言えば見方が違いますが 下見山行こそ、それではないかなと考える処です。

篠井連峰でのマロニエ小野口さんの細やかで丁寧なやり方。隠れ三滝での 宇都宮HC 鍋木さんの超ハイスピードでの歩行。ミツモチ山での標高差 600mを頂上から降り また登り返す下見山行等 貴重な体験をさせて貰いました。

今回 山想会としては 参加者 21名 当初の目標を達成出来ました。

交流ハイクの目的の一つには他会とのお付き合いの部分がある訳でしてその意味では県連関係 各会の参加者 山想会の参加者の御協力に感謝しております。

野木山想会 HC委員 河島 吉昭

県連ハイキングに参加して

11月15日、霧降で県交流ハイキング集会が行われ昨年に続いて二度目の参加をする。昨日までの曇り空から一転し快晴に恵まれ、日光の山々がくっきりと見えていた。その後隠れ三滝を巡り 12時に下山する。下山後の交流会場では甘酒が用意されていて飲みながら談笑し、午後はゆっくりと昼食をとった後フォークダンスを楽しむ。

一年に一度、各クラブの方と混合チームで山行。顔見知りの人に会えて懐かしい。元気でしたかー(^-^)と声を掛ける。

そんな私がAさんの紹介でクラブに入ったのは二年程前、“コンパス”の存在も知らずに読図講習会に参加した。それ以前は、山と言えばキャンプに何度か行った事があるくらいで登山経験は無い。興味を持ち始めていた為、基礎から教えてもらえるこの機会に地図が読めるようになりたいと期待した。地形が分かれば行ったつもりになって楽しむ事も出来る。(今では会報に載っている山行に参加出来るかどうかの判断もつく・・・ハズ?)

また実際のトラブルを想定した実技で脚がつったり怪我をした時の対応等の講習も受けられた。それ以外にも山の状態や天候の違いでコースを判断したり、学ぶ事は多い。

昨年はハイキング楽校にも入り他のクラブの方々と一緒に沢や岩場といった難所を体験する事も出来た。そう言ったことが出来るのは県連の活動があるお陰だと思っている。今はあまり山行に参加できていないが、登山に関する知識をしっかりと学べ、身に付けられる場を提供して頂き感謝しております。ありがとうございます。

最後になりましたがハイキング交流会を準備して下さい下さった方々ありがとうございました。

マロニエハイキングクラブ 吉田 美枝子

